

令和5年度生駒市男女共同参画審議会(第3回)

- 1 日 時:令和5年11月30日(木) 午後3時から午後5時まで
- 2 場 所:生駒市コミュニティセンター 4階404会議室
- 3 出席者:田間委員、藤次委員、緒方委員、生駒委員、田中委員 城野委員、柴田委員(WEB 参加)
(事務局)中谷市民部長、後藤人権施策課長、男女共同参画プラザ 福山所長、瀧川、真銅
- 4 議事内容
 - 1 生駒市男女共同参画に関する市民意識調査中間報告について
- 5 傍聴者:なし

事務局	<p>ただいまから、令和5年度第3回生駒市男女共同参画審議会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会議につきましては、原則公開となっておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>本日の傍聴者はございません。</p> <p>会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。次第、(資料1)アンケートの概要、(資料2)市民アンケート、(資料3)事業所アンケート、(資料4)中学生アンケート、(資料5)職員アンケート、(資料6)調査対照表、クロス集計項目になります。資料のない方はいらっやいませんでしょうか。</p> <p>(なし)</p>
事務局	<p>本日の会議につきまして、6名の委員の出席があります。また、15:30から柴田委員もウェブで参加していただきますので、よろしくお願いたします。委員は全員出席の状態です。生駒市男女共同参画推進条例施行規則第12条第2項「審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」との規定があり、本日は過半数の出席があるので成立していることを申し上げます。</p> <p>また、議事録作成のため録音させていただきますので、よろしくお願いたします。</p> <p>それではこれより案件に移りたいと思います。以後の会議につきましては、施行規則第12条第1項「審議会の会議は、会長が議長となる」との規定により、田間会長にお願いいたします。よろしくお願いたします。</p>
会 長	<p>それでは、本日は調査報告書速報版が盛りだくさんですので、どうぞよろしくお願いたします。それでは、事務局より説明がありました通り、本日の会議及び議事録の公開を委員の皆様にご了承いただけますでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
会 長	<p>よろしいですね。それでは次第に従って進めていきます。まず、生駒市男女共同参画に関する市民意識調査の中間報告の市民アンケート調査より事務局の方から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(説明)</p>
会 長	<p>はい。ありがとうございます。速報版ですので、皆様には、報告書をもうちょっとこういう風にした方がよいとか、表やグラフの書き方や、クロス項目の追加を検討した方がよい項目など、この結果に関して何でもご意見やお気づきの点をいただければと思います。</p>

委員 41 ページにあるように、回答者の年齢は70歳以上が 29.2%と一番多いですよ
ね。ただ、例えば、家事の問題とか子育ての問題とかは、30代が一番関わっている
設問ですよ。そうすると、どのあたりまで、現実が反映されているか気になります。

会長 とすると、性別だけではなく世代別のクロスも出すのはいかがですかということに
なりますね。

委員 その方が現実に近い数字になるのではないかと見ておりました。

事務局 調査は世代が偏らないように配布しましたが、結果として回答いただいた方に偏
りがある状況になります。

委員 就労希望のところも、回答者のうち退職した方が多ければ、「仕事がしたくない」
が多くなるのは当然に思えます。

会長 できるだけ年齢のクロスを出す方針でできますか。ただ、すべてを資料にして出
していくと大変なので絞っていく方針でいかがでしょうか。それでは、事務局より資
料 6-1 今後のクロス項目について、説明をお願いします。

事務局 資料にあるように自由記述以外の各設問の①、②等がついているところが性別と
年齢のクロスをする予定としています。

会長 性別と世代を掛け合わせて回答の分布を見るという理解でよろしいでしょうか。

事務局 はい。

会長 それでは、予定はあるので報告書には全部は載せなくてもいいかもしれませんが、
一応デフォルトでは、すべて出すことになっているという認識でよいですか。

事務局 はい。

会長 その中で、特に性別役割分担意識が中心になるんですが、さきほどの仕事をした
くないとか、育児のあたりなどは、世代間の違いがあるか気になります。
それでは、施策に反映するときに重要なものを選んで報告書に載せていくという
形にしますか。その場合も全体の詳しい集計結果はこの審議会では共有できるので
でしょうか。

事務局 はい。ただ、集計結果を出すことは可能ですが、性別・年齢のクロス分析を行った
場合、設問によってはサンプル数が少なくなります。結果の使い方については検討
が必要になる可能性があります。

会長 10代と20代をまとめて表示させるなど、工夫の仕方はあるかと思えます。

事務局 すべての集計結果を出して確認してみないと分からないところではあります。

会長 それでは、特に性別・年齢別の結果を報告書に入れた方がいい設問を先に伺っ
ておくのはいかがでしょう。

委員 問6の「家事・育児等の役割分担」、と問9の「就労希望」については出していた
きたいです。

会 長 そうですね。それから、問1も気になります。

委 員 問2「男女の地位の平等」が世代別で知りたいと思います。

会 長 結果を全部出すにせよ、調査報告書として施策に繋げていくのに大事な項目だと思います。他に何かありますか。

委 員 全体に関してですが、前回調査に比べて回答者数が減っています。発送数が違うのでしょうか。

事務局 発送数は同じですが、回答者が減っている状況です。

会 長 ネットを併用しても、若い人の回答率は増えなかったということですね。

委 員 年齢別に回答率をしてみるのはどうでしょうか。明らかに下がっているの何か原因があるのかが気になります。特定の年齢層の回答率が下がっているのかどうか。

会 長 問31で回答者の年齢が記載されていますね。今後も回答率が下がり続けられては困りますね。

(柴田委員がウェブ参加)

会 長 今、資料2の市民アンケート調査の報告について、年齢・世代別で違いがある項目があるのではないかとということで議論しています。今後、統計的に全て出していく予定ですが、調査報告書でも載せておきたい項目の希望があったら言いたいでということで議論している状況です。他にご意見はありますか。

委 員 できれば全部見ておきたいです。例えば、DV はどの年齢の人に多いのかや、若い人に対しての支援と仕事を辞めた人に対しての支援は違うと思います。特に、問11、問12、問13についても見ておきたいです。

委 員 傾向を見ることが大切なので、一回出してみても、年齢別の傾向が見られた場合、それを入れれば良いのではないのでしょうか。

会 長 やっぱ審議会では一回、すべて出したものを見ておきたいですね。ただ、1月、2月には調査報告書を仕上げているといけなくて、そこをどういう手順で進めていくかが難しいですね。今日の委員のご意見を踏まえて、事務局と相談しながら進めていき、2月には確定しなければならないタイトなスケジュールになります。

したがって、次回の審議会の時に、すべてクロス結果を出してみても、そこから考える時間的な余裕はないということですね。

事務局 そうです。

会 長 委員は問11、問12ということでよろしいでしょうか。

委 員 そうですね。

委 員 問9と問1、問4も気になります。

会 長 共働き思考が増えているので気になりますね。問3など大きな変化があるので気

になります。

委員

スケジュールの兼ね合いですけれど、基本的なところはあった方が、分析がしやすくなるのかなと思います。

会長

ありがとうございます。それでは、いくつか出ましたので事務局のほうで、重点的に気をつけながらクロスを出していただければと思います。そうすれば、新たな傾向が分かるのではないかと思います。

市民意識調査について、他に気になるところ、お気づきの点はございませんか。

(なし)

会長

それでは、この調査結果をもとに、次期計画を立てていくときには、データとして使えるものはいくつかあるのではないかと思います。

では、続いて事業所アンケートの説明をよろしくお願いいたします。

事務局

(説明)

会長

ありがとうございました。それではご質問、ご意見をいただければと思います。実際の報告書にするとときは、凡例が同じ図は凡例をまとめてもらった方が分かりやすいと思いました。今回、回答してくださった事業者は、生駒の事業所の中でどういう層になっているのか気になります。

事務局

生駒商工会議所に登録されている事業所にアンケートを送付しているので、全体でまんべんなく業種を選んで送付したわけではない状況になります。ただ、生駒市に本社がある事業所だけではなく、支社・支店がある事業所に対しても調査協力していただけるように配布しています。

会長

そうすると、全国の雇用調査と生駒市のデータを母集団的に突き合わせて考えることは、むずかしいということですね。回答した事業者に偏りがあるのかは気になりました。

事務局

どの業種の方に送付したかを会社名から把握することは可能ですが、商工会議所に加入していることが前提になります。

会長

先ほどの市民意識調査でも職場の代替要員の問題とか職場関係の希望が出ていましたが、こちらの事業所アンケートでも同じ傾向が出ています。そのため、生駒市としてどのように調査結果を計画に反映させていけばいいのかが大事なところだと思います。他にもお気づきの点はありますか？

委員

サンプル数(N=75)の中で、回答の中で 1.3%という箇所がいくつかありますが、問題ないですか。報告書として出すときにはセンシティブなところがあるので、まとめて記載するなど表現の検討が必要かと思います。大概の設問は、特定の1社として表現されても問題ないとは思いますが。

会長

設問によっては 1.3%という表現も構わないと思います。企業規模などとクロスはしていないので、問題ないと思います。内容を精査して、細かく分けるよりはだまかにして表現した方がよいかもしれないですね。平均勤続年数でも細かく分けているが、もう少しカテゴリー化して帯グラフを見やすくするなどしてもよいかと思います。この結果を用いて、どのように計画に活かしていけるかが課題ですよね。

(育児休業、介護休業の活用をすすめるうえでの課題についての設問で)「代替

要員の確保」など課題は出ていますが、特に課題はないとの回答は、育児休業、介護休業を取得したい人がいなければ問題はないですが、経営者が従業員の希望に気づいていないということもあるのではないかと思います。

事務局

「課題がない」とか、「対策について考えていない」と回答した事業所に対しては、イクボス宣言をしていただく事業所を増やしていくという観点で、休暇制度などの福利厚生的なところを若い人が求めていることも伝えながら企業に啓発していくことを、商工会議所と連携して進めていく根拠になるかと思います。

会長

難しいのは代替要員の確保というところですね。
それでは中学生アンケートの説明を事務局よりお願いします。

事務局

(説明)

会長

中学生アンケートは3年生を対象にしているので、性別ごとにクロスを実施しています。何かご意見ありますでしょうか。

委員

平等な感覚を持っている中学生が多いですね。特に学校の場合とかは平等と答えている人の割合が多い傾向が見られます。

会長

市民アンケートよりは少ないですが、政治の場合とかジェンダーの不平等さは出ている傾向にありますね。学校生活では結構平等な気がしているようですね。自由記述はたくさんあるので、意見を踏まえて考えていかないといけませんね。

委員

気になったところが2点あります。まず、問1-2の注意について、女性の言葉遣い、座り方の注意をされているところが多いですが、大人の男性や女性のあるべき姿勢的な固定概念が影響しているのではないかと思います。

また、問10で、メールの返信が遅いと怒るということについて、変だと思わないという回答率が全体の3分の1もあるので、今の子どもたちの考え、子ども社会の中のルールという所で、このデータには驚かされました。また、選択肢①や③誰とどこにいたのか、しつこく聞くというところについて、男女別で差があるか、今後見てみたいと思いました。

会長

19 ページの問10は男女別のクロスは出ていないので、欲しいところですね。この設問はデート DV の出前講座などの実際の現場の改善に生かしていけるようなところがありますね。感覚が違うのでしょうか。

委員

問16について、「相談相手がない」の回答が多いのは、性別がどちらでもない人が多い傾向が見られます。どのような支援が必要か気になります。

会長

性的多様性とかを人権保障としての性教育と繋げてやっていく必要がありますね。また、デート DV など抑えていく必要があると思います。

委員

学校生活の中でも隠れている人たちですね

委員

ケースバイケースです。データから見ると4%いるので、クラスに1人くらいは居ることが推察できます。各学校として個別に対応しているケースはあります。

委員

クラスに1人いるとして、生徒のことを学校は分かるようになっているのでしょうか。

委員 学校として把握できているのは全員ではないと思います。

会長 本当にクラスで1人なのか。もうちょっといるのではないかと思います。

委員 ハワイでは、普通に性的対象をオープンに会話していましたね。日本ではどれくらいの方が隠れているのかが気になります。

委員 市民アンケートでは、回答者911人に対して性別がどちらでもない人は12人ですが、中学生は回答者716人に対して27人いるので、明らかに本人の自覚もあり、周りもそれなりのサポートがあることだということでしょうね。また、男性、女性とは違った悩みもあるかと思うので、そこはしっかりケアしていけるようにしたいですね。

委員 ここを拾えて本当の多様性かなと思います。

会長 上のほうの世代は自分の気持ちを押し込めていたり、気づかなかったりして、隠れていたと思いますが、中学生はオープンになってきているので、そこをサポートしていく、別に特別なことではないことを前提に生きていける社会を実現したいですね。それを男女共同参画の政策の枠組みで取り扱うのは難しいこともありますが、奈良県などがはっきり関係性を出してくれたら生駒市としては楽だと思います。大阪府は多様性の条例は持っているけれども、男女共同参画の計画はそれに合わせていないですよ。ただ、実際の計画は男女共同参画しかないの、そこにどれだけ組み込めるかは様々な議論があります。なかなか難しい問題ですが、生駒市ではできるだけ若い世代をサポートして、生駒市が良いと思ってもらえるようにしたいものです。他にお気づきの点はありますか。

(なし)

会長 ありがとうございます。中学生は学校の中で平等だけれども、政治は平等ではないと感じているようなので、市民アンケート調査と合わせて、良い政治ができるように使っていきたいところですね。また、事業所に対しても研修などで中学生や若い世代の考えや悩みを伝えるなど活用できたら中学生も喜んでくれると思います。では、職員アンケートについて、事務局より説明をお願いします。

事務局 (説明)

会長 ありがとうございます。クロス表については資料6-4に記載があります。

委員 5ページの問1について、前回からではなく、平成15年から図を入れている意図は何かありますか。

事務局 情報として平成15年からあるので、入れて表示している形になりますが、不要ということでしたら削除してもいいかと思います。ただ、入れることによって、年度ごとの経年変化の違いがあるものがあれば、残しておくことも考えられます。

会長 載せておいた方が、変化の仕方がわかるので、情報量が多いほうがよいかと思います。

委員 感想になりますが、問9で、管理職になりたくない理由が、責任が重くなるからという意見について、ワークライフバランスの観点からそのような結果になっていると推察していましたが、問22のワークライフバランスでは、仕事優先の傾向が前回に比べ増えていたので、このあたりをどう見たらよいのか気になりました。

- 会 長 たぶんこの2つの設問をクロスすると偏りがあるか否かわかると思います。前回調査では、女性では両立がしにくいからなどの理由が出ていましたが、今回はどうなのか気になるところです。ワークライフバランスを選ぶ人が少なくなっていることについて、二極化しており、個人生活を選ぶ人は増えていて、仕事優先の人も増えていることから、シングルの人が増えているからかなと思っていました。
- 政府がワークライフバランスや働き方改革を進めているのとは違う傾向で、人々が自分のライフスタイルを選び取ろうとしているような状況になっていますね。
- 委 員 超過労働が認められるエグゼクティブ特例的な感覚なのかなと思いました。働きたい人はたくさん働くようなことでしょうか。
- 委 員 ただ、市役所の公務員は難しいですね。
- 委 員 アクセルとブレーキを同時に踏んでいるように見えます。責任は重くなるけれども昇進したい人もいれば、ワークライフバランスを保ちたい人もいれば、全面的に仕事を優先させたい人もいるだろうし、どう読み取ったらいいのかが難しいですね。
- 会 長 今回の回答はばらつきが出ている現状ですね。もう少し他の設問とクロスしたら見えてくる可能性はあるでしょうが、難しいかもしれないですね。
- 委 員 10ページの回答者の職種のところ、消防の方が増えて教育・福祉技術系が減っていますが、これは職員数の増減の変化なのか、回答率が減っているのかどちらなのか気になります。
- 事務局 両方の影響があるかと思います。定数の問題もありますが、教育・福祉関連の職種が減っている一方、消防は一定数職員がいる状況です。
- 会 長 母集団の構成比がわかると読みやすくなりますね。
- 事務局 職種別の職員数を確認するようにします。
- 委 員 一方で、女性の職員数が増えていますね。
- 会 長 研修についての設問で、10%ほどの回答者が、研修の結果「わからない」と回答しており、そういうものなのか気になりました。そこは、研修の組み立てとして改善できないか。どうして、研修しているのに一定数「わからない」人が出てしまうのかが気になります。
- 事務局 定期的に職員に対し通知や研修の募集をしていますが、忙しいので見落としをしているのかどうなのか、わからないところではあります。
- 会 長 19ページの間15で、「男女共同参画が業務とどう関係するかわからない」や「男女共同参画に関係ある業務ではないから」の回答が一定数いるので、丁寧な研修にするなど反映させていかなければいけないと思います。また、職種や年齢層などの属性ごとに各自どう思っているか掘り下げて、有効な研修に繋げて探っていけたらよいと思います。
- 委 員 この結果を見てがっかりする市民もいるかもしれないですね。

委員 問16の審議会等の女性委員の割合についても、前回から比べて、「目標値に近づけるべきだ」との回答があまり増えていないので、少し意識が気になりますね。

会長 一応、思っしてほしいですね。数値目標は共有してほしいですね。

事務局 直接、聞き取りをするとわかっているとの意見はありますが、効果的な方法が見つからないことや専門的な分野になるので、という理由もありました。もともと、女性の有識者が少ないので選びようがないという問題もあります。例えば、文化財保護の審議会の委員は、女性の有識者が少なく選びにくい状況にあります。

会長 理系の分野なども該当し、悪循環になっていますね。

委員 職員の方には意識だけは持っていただきたいです。

会長 問24で、地域との関わりも全く興味がない人も2割近くになっていて心配になります。市民が見たらショックかもしれないですね。そういう意味で調査をやっていただいてよかったです、少し悲しいですね。他には何かないでしょうか。

(なし)

会長 本日のアンケート速報版についての議論は終了させていただきます。

事務局 資料7については、すべての意見を載せていますので、取扱い注意をお願いします。報告書に掲載する際は、誤字・脱字や長文などがあることから、一度、事務局で案を作成し、12月中旬を目途に会長と副会長に確認をいただき、次回の審議会で報告書の原案を共有する方針でよろしいでしょうか。

会長 元データは配布しているので、報告書用の抜粋を委員の皆さまに確認をする形でよろしいでしょうか。

(異議なし)

事務局 来年の1月と2月の中旬以降で、審議会を予定しており、日程調整を行いたいと考えております。1月の審議会は29日か30日の午後、2月の審議会は20日から22日の午後に候補日として調整することにさせていただきます。

(異議なし)

以上